

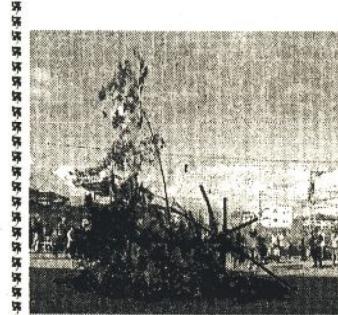
田迎の史跡めぐり

シリーズ⑪

田迎の史跡めぐり
田迎小学校門前にある石仮で、以前は石室ではなく、大木の根元にすえられていたが、根が地蔵を取り囲んでいた。昭和二十六年に根が切られ、今の石室に安置された。傍らに説明掲示板が立っているが、江戸時代中期、熊本府(今の熊本市)に「放牛」という高僧がいて、享保七年(一七二二)から同十七年まで十一年間にわたり、百十八体をこえる石仮(百十八体)を建立した。享保年間の肥後は飢饉や洪水が多く、庶民の生活は困窮を極めていた。



放牛地蔵尊



子どもの作文つーなー

どんどやに参加して

四年三組 萩野 由佳

一月十日、一・五町内合同のどんどやがありました。この日は、風が強く雪もふつて寒い一日でした。でも、どんどやのやぐらに火が入ると、赤な炎が高く高くもえ上がりました。しばらくは、みんなが持ち

まわりがねで、くくりつけたもちをつるし、火に近づけて焼きました。わたしのおもちは、よく焼けませんでしたが、子供会の方が焼かれたおもちをせんざいに入れて、食べました。熱くて甘くて、おいしかったです。わたしは、この後、せんざいをつぎわけるお手伝いをしました。わたしは、この後、色々な方に、喜んでもらえて、とても楽しかつたです。また来年も行きたいです。

楽しいもちつき

五年 近藤 慧太

一月十二日、出仲間公民館でどんどやがありました。朝早くから公民館の中にテー

このよだんな人々を力づけ、精神的な救済をはかるため、放牛は自ら願主となり各地に石仮の建立をすすめた。

世に、これを「放牛地蔵」と呼んでいる。この地の石仮は、その第一体目で台座正面に次の願文が刻まれている。

「募化勧力彌刻座像地蔵尊立 千道側蓋普大縁同生淨邦」

享保七年壬寅五月放牛

これは、布施の協力を得て、座像地蔵尊を彌刻し、路傍に建立します。

一人残らず極樂淨土に往生しようと言う意味です。

放牛上人は、大願成就の年、享保十七年十一月八日亡くなり、横手町四方池台に葬られた。

（たむかえ散歩より）

どんどやの火

どんどや

五年四組 入江 薫

一月十日、砂入公園で、どんどやがあつた。天気予報で雪マークがついてたので雪が降ると期待していたけれど降らなかつたので残念だった。

老人会と自治会の人達がどつたので、お父さん、お母さん、ばくで一緒にもちをつきました。お父さんが力強くもちをつくと、もちが少し飛び散りました。

ぼくは、友達のゆうや君と、とても息が合つて、すごく速いをしました。わたしは、この後、ぜんざいをつぎわけるお手伝いをしていました。

この日は、お父さんも休み

た。三町内では残り火でバーべキューやかつば酒の振る舞いも行われていた。

また、子ども達は残り火

にもちを竹でつるし焼いて

食し、無病息災を祈つてい

た。

どんどやに対する考え方

も変わつて来た様で、どんどやを行つて、住民の無病息災を祈つてた。現在、それが少なくなつたのは残念である。

三町内では、場所が狭く

附近の家の迷惑を考えた竈式のどんどやになつてた。各町内共に子ども会によつて、田迎校区内では、町内主催のどんどやが行われた。

消防団の方々によつて、大

きなやぐらが作られて、午

前十時すぎに点火されたと

の事である。

三町内では、場所が狭く

消防団の方々によつて、大

きなやぐらが作られて、午

前十時すぎに点火されたと

の事である。

三町内では、場所が狭く